

産業界からの課題解決のためのスタディグループ

趣旨：

今回のスタディ・グループは、産業界や環境数理に関連した課題の数学的解決や数学を軸にした異分野の研究者との共同研究や連携を発展させることを目指します。活動内容は、初日の3月10日（月）に、産業界、工学の分野からアカデミアの研究者に対して産業現場からの未解決の数学的問題について紹介・解説があり、興味を持った聴衆が、3月10日午後からの会期中、当該問題の提出者と協力し、数理的な解決のために具体的な作業を行います。3月14日（金）に最終報告会を行い、当該課題に関連した産学連携の今後の発展を図ります。

参加企業はニコン株式会社、羽田野祐子・筑波大学准教授で、以下のようなプログラムを予定しています

3月10日（月）10：30 - 12：00, 117号室：課題提起と説明

10:30 - 11:00：ニコン株式会社

11:00 - 11:30：羽田野祐子・筑波大学准教授

3月10日午後- 3月14日（金）午前：

課題ごとに分かれて解決に向けたワーク、主体は院生、若手のポスドクで、各グループごとに経験のあるポスドクまたはファカルティメンバーがコーディネーターとして議論のとりまとめなどを行います。

コーディネーターは後日通知します。

3月14日（金）14:00 - 16:00, 123号室：

得られた成果の報告会、課題を提示した方からの成果の評価

活動の主体がワークにあるので各コーディネーターの議論の組織化と取りまとめが重要です。

提示課題について

ニコン株式会社からの課題：

「CGM 分析における最適化問題」

要旨

近年、インターネット上の CGM (Consumer Generated Media) の収集・分析することより、一般ユーザーの生の意見を入手し、新製品の企画などに生かすことが行われている。しかし、データ量が膨大である場合、分析者が全データに目を通すことは不可能である。そこで、分析者が効率よく分析を行う手法について議論を行い、分析者の作業を軽減することを旨とする。

キーワード：テキストマイニング、文章要約

発表者：(株)ニコン 光技術研究所第二開発課 小林 寛子様

羽田野祐子・筑波大学准教授からの課題：

「福島事故による空間線量率と再浮遊の関係について」

主催・共催：

数物フロンティア・リーディング大学院プログラム、卓越した大学院拠点形成支援補助金
平成 25 年度「文部科学省 数学・数理科学と他分野・産業との連携研究ワークショップ」(文科省/数学イノベーションユニット)

研究代表者：

坪井俊、山本昌宏